

## あいさつ運動を通して、なかまとともに高め合う児童生徒の育成

ながい

### 〈目的〉

あいさつからコミュニケーションが広がり、いろいろな人たちの心と心がつながります。あいさつを通して心の通った人間関係を育み、将来に希望を持ち、なかまとともにそれぞれの能力を高めたり、個性を生かしたりしながら、夢に向かって挑戦できる児童生徒の育成をめざします。

つながり

### 〈内容〉

#### ● 中学校区全体で取り組むあいさつ運動

毎月8日に児童会・生徒会が中心となって校門であいさつ運動を行いました。また毎日、教職員等が正門にて、あいさつをしながら児童生徒を迎えることもあわせて行いました。



【長尾小学校での交流あいさつ運動】

#### ● 中学校区内小学校同士の交流

中学校区内の3小学校は、それぞれ学校規模や地域環境が大きく異なっています。そのため、中学校入学時の環境の変化に対応できるよう、6年生を中心に交流活動を行っています。

- 前山小学校 → 長尾小学校にて学校生活(学習・給食・遊び)交流
- 前山小学校 → 造田小学校にて観劇教室(鑑賞)交流

#### ● 教職員交流 —中学校区人権・同和教育研究会(保幼小中)の発足—



【人権学習参観の様子】

- 中学校において、中学校区内の公立保幼小中学校教職員と関係機関職員の約100名が、3年生の授業参観の後、生徒指導部会、学習指導部会、家庭地域連携部会の3部会に分かれ、中学校教育の終わるまでの15年間を見通した人づくりを目指し、各校園所の取組について情報交換を行いました。

高まり

### 〈成果〉

小中学校間での相互の授業参観を行ったり、中学校区人権同和教育研究会において、3部会に分かれた話し合いに参加したりすることで、異校種の教育活動内容が具体的に理解することができました。その中で、異校種間の系統の重要性や同校種の連携の必要性が課題となり、今後の連携の新たな方向性や具体的な内容が確認できました。また、中学校入学時における、異なる出身小学校生徒間のトラブルが減少傾向にあることや、徐々にではあるが、あいさつのできる児童生徒が増えてきたことは、大きな成果です。